

□連載小説／最終回▽

# 播州路

福元 早夫 え・山本 文彦



ぼくが、久美子と結婚したとき、祖母は反対しなかった。反対しなかったところか、おおいに賛成だった。

南九州のぼくたちの故郷の人々は、自分の息子や娘たちの結婚は、同郷人同志で、という観念がある。とりわけ親たち、なかんづく、父親たちにそれが強いようにおもう。

久美子とは同郷ではなかった。その彼女と一緒にいるということは、ぼくにとって、ちょっとした勇気のいることだった。神戸で生まれ、神戸でそだった彼女と、この先ずっと、神戸で生活をしていく、ということとは、ぼくのまえから、故郷が、かんぜんに、抹殺されてしまうということになる、と思えたのだ。ぼくは考えこんだ。

祖母は、それでいいのだ、といった。ぼくのまぶたのうらがわにすみつづける母のことを、祖母は知っていたのだとおもう。故郷と何ら関わりをもたない久美子と結婚することによって、母から、ぼくが、完全に離別できると、祖母はいうのだった。

しかしそれは、たんなる血のつながりとしての故郷ではなかったのか。ぼくにとって故郷とは、むしろ母もふくめて、ぼくをはぐくんできたあのシラス大地であり、強烈な南国の太陽であり、山であり川であり、とりもおさず、ぼく自身なのだった。

久美子と出会ったのは市の読書サークルでのことだった。読書会へたどりつくまでに、ぼくは自分をさがしてあちこち歩きつづけたものだ。だけど、どこへ行っても、自分を探しだし、つかみとることはできなかった。

中学を卒業して、集団就職列車にのって、ぼくは神戸へやってきた。製鉄工場の養成工となったのだ。養成工としての三年間は、規律のきびしい軍隊のような生活を想像させた。午前六時の起床から、午後九時の就寝まで、敬礼ではじまって敬礼で終り、点呼で明けて点呼で暮れるまいにちの連続だった。

木造モルタルの二階建てが五棟ならんだ寮の中で、ぼくらは大きな太鼓の音にふりまわされた。四〇〇人ちかい仲間たちは、ぼくと似たりよったりの、貧しい農山村の出身者がおおかただった。九州、四国、山陰、北陸、東北、と、ことばもまちまちで、おかしかった。

ハツリ作業の実習はつらかった。右手に片手ハンマーをつかんで、左手にタガネをつかむ。パイにはさんだ鉄の塊にタガネをあてがい、ハンマーで力まかせになぐりつけるのだ。指導員の笛を合図に、ぼくらは五〇台のパイにむかって、ガチャン、ガチャン、くる日もくる日もなぐりつづけた。ハンマーをつかんだ手の平は、いくつもの血まめがやぶれ、タガネをつかんだ左手の甲は、スカをくらったハンマーでしたたかにどつかれて、浅黒く腫れあがった。なんだか、自分で自分を、執拗になぐ

りつづけているようだった。痛かったし、苦しかった。

養成工としての三年間を卒業して、現場へでた。仲間たちは、日本列島の表海岸の、四大工業地帯へと、それぞれ分散していったわけだ。ぼくはそのまま神戸の工場だった。

工場の仕事は、昼、夜、徹夜、と、三交替だった。圧延機でステンレスをうすくのばす。圧延油によごれ、汗にぬれるまいにちの連続だった。

工場と寮は、目と鼻の間だった。仕事でぐったり疲れ寮で死んだようにぐっすり眠る。目がさめると、また工場だった。

養成工時代の仲間たちは、辞めていく者がおおかった。工場の、工員などしていたら、何のために生まれてき、何のために生きているのかわからない、というのだった。かれらは夜間高校へかよい、卒業すると、大学受験のために辞めていくのだった。

ぼくにはそんな勇気がなかった。故郷を離れるとき、祖父と祖母が、口をそろえていった、どんなときでもじつと我慢をして、辛抱をするように、ということばが、二人の老人のシワのふかい顔とかきなつて、甦ってくるのだった。故郷がつきまとうのだ。

ぼくは夜学へはいかなかった。かわりに、ボクシングジムへかよった。夜学へ行き、さらに大学へといって、工場の工員から脱出することで、何のために生まれてき、何のために生きているのか、が、つかめそうではなかったからだ。ぼくは自分をいじめたい、と思った。他者に、めちやくちゃんに、殴られたい、と思った。だからボクシングジムへいったのだ。自分をつかむ手がかりが、何か得られそうな気がしたのである。

青春とは自分の力で創りだすものであり、そしてそれを、掴みとるものである、とぼくはおもう。工場で、圧延機にむかって三交替の仕事をしながら、ぼくは欠かさずジムの扉を開けた。

ふしぎだった。仕事で疲れはてたぼくの肉体は、ぼろ



布のようになっていいるはずなのに、ジムの門をくぐったとたん、生気がよみがえってくるのだった。ボクシングを、苦痛だとは、すこしも感じなかった。と同時に、工場が、圧延機での三交替の仕事が、そう気にならなくなった。ぼくは歯をくいしばってサンドバックを叩きつづけ、縄とびを跳びつづけた。全身、汗、ぐっしりだった。大きな鏡にむかってシャドーボクシングをつづけた。自分の、得体の知れない影をなぐりつづけた。

数々のスパーリングをこなし、プロのライセンスをとった。西日本の新人王戦にもでた。三時から四時かく減量して、バンタム級の選手ということだった。工場の、口のわるい仲間たちが、いよう、チャンピオン、とぼくをひやかした。

ぼくにとってボクシングとは、チャンピオンになって金を稼ぎ、いい生活をしたためのもものでは決してなかった。ちよつとカッコウをつけていえば、自己認識の手だて、自分を客観的に捉えるための手がかりだったのだ。いや、故郷や、母から離れて、完全に自立でき得ない自分を、たたきのめすためのものであったのである。顔が腫れ、目がつぶれ、鼻がひんまがった。もともと、ボクサーとしての資質はなかったのかもしれない。それで、もぼくは、むかっていった。

だけどぼくは、二〇歳をすぎてしばらくすると、ボクシングをやめた。

神戸での試合のときだった。相手は学生で、在日朝鮮人だった。一ラウンド二ラウンドとぼくはぶつとばし、猛牛のようにむかっていった。だのに、相手はすこしもこたえていない。あまりにも冷静かつ沈着なのだった。

むかつていきながら、ふつとぼくは、ボクシング以外のことを考えてしまった。つまり、びくともしない相手にむかつて、むやみにパンチをふるいつづける自分の姿を、観てしまったのである。急に全身の力がぬけ、徒勞を感じた。

そのぼくのころを、相手はいちはやく読んだようだ。

むかつてきた。ハンマーのような重いパンチを、ぼくの顔面に、みぞおちにたたきこんできた。ぼくは逃げた。ロープに囲まれたリングの内側を逃げまわる自分を、檻の中のひよわい小動物のように感じた。コーナーから会長のアドバイスがとんできた。だけど、手がでない。手がでないどころか、会長の怒声が、調教師のそのようにひびいてくる。

もういい、と、ぼくは自分で自分を得心させた。もう、これ以上自分をいじめることはない、と、鋭い相手のパンチを浴びつづけながら、ぼくは自分を納得させた。

「ねえ、兄ちゃん」と、ふいに冬子がぼくを呼んだ。えつ、とぼくは息をのんだ。

「兄ちゃん、疲れているみたい。顔色がわるいわ」

冬子が心配顔でこちらをのぞきこむようにしていった。そうや、仕事のせいや、と、ぼくはちいさくわらった。

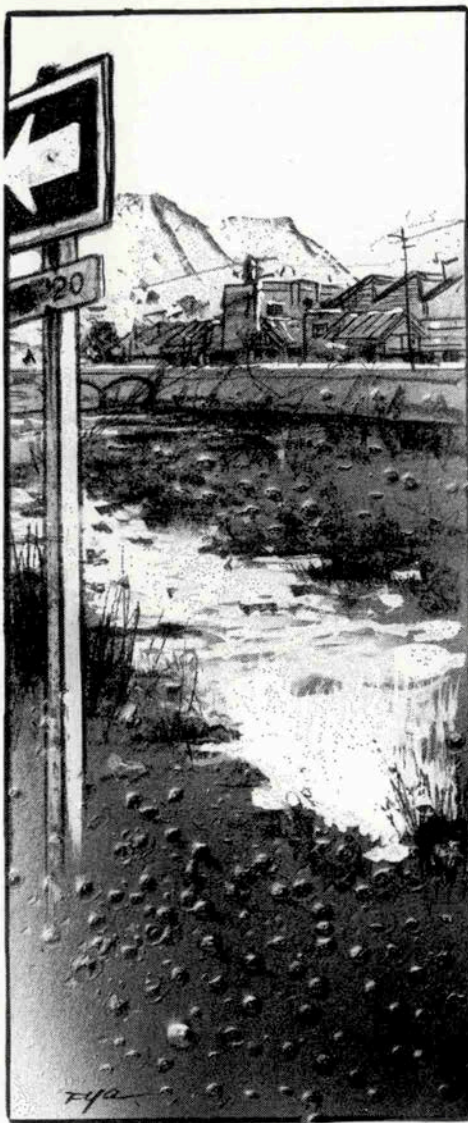
「生きていくことはしんどいし、大変なことよね」と、ひとりごとのように、妙におとなびた口調で冬子がいった。

「そうや、大変なことや」といいながら、ぼくはたばこをくわえた。なんだか、こちらのところの中を、見すかされているような按配だ。

「ところで兄ちゃんねえ」と、あらたまった口調で「うちのお母さんも、紡績工場で働いていたんだってね。若いとき……」と、冬子は思いだしたように訊いてきた。「そうや、ずつとむかしのことや。奈良の大和郡山だったとかいいたことがある」

ぼくはこたえた。ぼくたちの故郷は、紡績女工の大供給源といわれている。

母たちの時代は、めろ（女中）で泣こよか、紡績にはつちけ（行つてしまえ）、の極端なところだったという。郷土や地主の家の、農具の一部としてあつかわれ、苛酷な仕事に泣かなければならぬ、めろよりも、いかに苦し



く哀しいとはいえ、紡績の方がまだしも楽だったというのだ。

母たちはイモづるのようになでかけていった。たとえば、一人の出稼ぎの女工が休暇でかえってくる。そして、ふたたび工場にもどってくるときには、かならず二、三人の娘たちをつれている、という。シラス台地の、貧しい土地からはいずりでた母たちは、まるで、一本のイモづるにぶらさがったイモの子のようになり、工場へいったのだった。ぼくが生まれるまえ、冬子が生まれるずっと以前のことだ。

「ふーん」と、感心したように冬子はうなずいてから、思いあたった、といったふうに

「だから、だから母ちゃん、耳がとおいんや。うちも、最近だんだん耳が遠くなってくるみたいやから、母ちゃんに似て、遺伝かなあ、て思っったんや。ちがうわ、紡績のせいや、機はたのせいやったんやわ」

と、口早にいつてしきりに得心した。ぼくはなんだか哀しくなってきた口をつぐんだ。母は女工時代、苦勞したはずだ。なのに、自分の娘をも、女工にしたのだ。冬子をはじめて播州へきたとき、ぼくはそのことで、母の無知をにくんだものだ。だけどそれは、母の無力のせいばかりではないのかもしれない。いずれにしろ、冬子を故郷へかえさなければならぬ。

「おまえ」と、なるべく冬子の顔をみないようにしながらぼくはいった。

「恋人がいるのか」

「恋人……」と、彼女はわざとらしくきかえし、こちらが黙っていると

「だって兄ちゃん、あたしだって女よ」

といっぱししないいかたをして鼻を高くした。ぼくの胸の内を、つめたいものがながれた。冬子を、生身の女として捉えたくない、というぼくのエゴイズムのせいかも



しない。

「西脇の男か……」とぼく。

「そう。大工さんよ」と冬子。

「歳はいくつぐらいや……」

「あたしより四つぐらい上かな、二十四か五くらいやと思うわ」

「そうか……」

「そう」

「それで、郷里の母ちゃん、父ちゃんは知ってるんか」

「うん。けど……」

「けど、どないしたんや」

「父ちゃんが反対やねん。西脇の男は、あかん、やて」

「ほうか……」とぼく。ほっと息をつきながら、父親の反対に、どこか安心してゐる。

「ほうやねん」と冬子。「見合いの相手やったら、郷里になんぼでもおるから、帰ってこい、やて」

肉親に対する愛は、最大のエゴイズムである、とぼくも思う。父性愛もまた、そんな類のものなのだろうか。

「勝手やろう、父ちゃんいうたら、いやらしいやろう」

「それで、郷里へ帰ることにきめたんか」

「うん、今年いっばいか、おそくとも来年の春までに」

「それでええ、それでええ」

ぼくはいった。結婚のことはさておいて、冬子の身体の方が心配だった。彼女は故郷へかえって、静養しながら定期的に医者へかよい、合間あいに、何か習いごとでもするべきなのだ。冬子は女なのだ。

ボクシングをやめてから、ぼくはジャズバンドでドラムペットを吹いた。工場へもペットをもちこんで、休憩時間も熱中した。演奏会やダンスパーティーのステージで、グレンミラースタイルのスウィングジャズのリズムにのった。三年ちかくつづいた。ステージに立ちあがって、ソロを奏するぼくは、カッコいいはずだった。だけどぼくは、それがにせものの自分であることを、誰よりもよく識っていた。だからペットをすて、読書会へいった。

「故郷へ帰れる冬子がうらやましいわ」といいながら、ぼくは腕時計をのぞいた。約束の時間がのこり少なくなっている。

「なんで……」と冬子がのぞきこんだ。

「わしには、帰れる故郷がなくなってしまう。祖母ちゃんが死んだら、いよいよほんまになくなってしまふ」

「だって」と、冬子は独得の、叫ぶようないいかたになつた。

「だって、うちがおるやんか、冬子がおるやんか。それに、うちの母ちゃんもおるやんか。何時でも帰ってきたらええやんか」

ふいにぼくは胸につかえ、涙がでそうになつた。だから足をふんばってたちあがつた。下手をして、泣いたりしたら大変だ。

ぼくたちは冬子の部屋を出て、ならんで階段をおりて行き、寮の外へでた。いつのまにか雨はあがつていた。山をとっぷりおおっていた濃い霧が、じよじよに晴れていくところだった。空気が澄んで、風がひんやりと頬をなでた。冬子は背伸びしながらこちらを見つめ、満足そうに笑つた。

「郷里へ帰るまえに、神戸によっていかなあかんで」ぼくはいった。

「兄ちゃんたちの生活ぶりを、祖母ちゃんや母ちゃんに報告せなあかんから、きつとよる」と、冬子はいたずらっぽくいった。

ぼくたちは互いに右手をあげて別れた。ぼくは何度かふりかえつた。冬子は工場の前でこちらを眺めている。手をふつた。

橋をわたつて杉原川をくだつていきながら、ぼくは、もう自分をのぞくまい、と思つた。両足をふんばつて、前へとむかつていかなければならない。

商店街を通りぬけて、駅前へ行くと、三宮行急行バスが、いままさに、発車しようとしていた。ぼくは走つた。

★こんにちは。おひさしぶりです  
が皆様お元気ですか？

博多、さきかれこれ半年たちまちですが、変りなく毎月神戸の風を運んでくれるように「神戸戸」を「を送りいただきありがとうございます」を。博多の冬は、南国九州の土地というよりも、玄海灘に對面する裏日本という、寒くて、寒く暗くウエットな冬でした。それで、も桜はやっぱ日本各地よりいくらか早く春を告げ、もうじき爽やか5月さんといった風情であります。

プロ野球開幕とともに、テレビ・ラジオはライオンズとジェイ・ブライアントにスリッパを、我々がライスは新聞の片隅にちょっぴりのところだけであります。当地では、やはり太平洋クラブライオンズのファンが多いんじゃないですか。毎日通勤する西鉄は、どういうわけが多くや盛りすぎた。O・Lさん、車は若いお嬢さん達がなつかしくあります。

もじき5月。神戸では例年のごとく神戸カーニバル（今は神戸百まつりと多いのですか）の季節です。当地博多では、「どんたく」というお祭りがあるそうです（5月3日、4日頃）。常日頃は私生活のような異民族が博多の街（千洲や天神や）を、植民地の如く（博多は全く、支店・支社・出張所の

街で、どこへいっても東京族、大阪族共がハイカイしております）のさばっているのを、ぶっとばすような、博多どんたくであること願って楽しみにしています。

23年、博多に遊びにきたつもりでありましたが、住めば都。ひょっとすると5、6年いることになるかもしれません。魚はおいしいし、車の混雑は万博前の大阪を思い出すような、工場がないから、いったい何で食っているのか、さっぱりはつきりしない街ではあります。

明日は日曜日。柳川へでもいって、ウナギのせいりむしを食べてこようと思っています。

「神戸っ子」をしのぐような郷土誌は今のところ当地には見当りませんが、そのうちまたいいのをみつけてお送りいたします。

「神戸っ子」をしのぐような素直な女の子は今のところ当地には見当りませんが、そのうちきっといのをみつけてお送りします。

神戸をしのぐような街に博多は今のところなっておりませんが、そのうち私が素敵な街なみにしてみたいと思っております。

☆「神戸っ子」をしのぐような女の子ナンテおるはずアラヘンよ。  
「神戸っ子」をしのぐようなタウン誌ナンテあるはずアラヘンでしよ。早く神戸へ帰っておいで。神戸をもっとステキな街にせんとアカン。のよ。ネッ！

△編集部より



★神戸ではお世話のなりっぱなし  
おかげであのすべてのびっくりと  
発見と久しぶりで本物の『神戸』  
を再発見いたしました。ありがとうございます。  
うございました。私にもう神戸か

ら五名の感激の便りが若い人からとどきました。新幹線での帰路、布引の滝を見物。水量あふれ(昨夜の雨)実に美しかったです。奥の茶屋のおかみさんが毎週逢ってまっせ、だって！

(横浜市 淀川長治)

☆月神戸っ子の15周年記念文化講演会。楠本憲吉、朝比奈隆先生とともに、ほんとに楽しい楽しい楽しい、涙こぼれる神戸のお話をあげてくださいました。

編集部へも感謝。感謝。感謝。とお電話があり、大変喜んでいました。それではサヨナラサヨナラサヨナラ。

△編集部▽

△編集部▽

★夏になったり、初春になったり、相変わらずクレイジーな気候の日々が続いてます。ちょっとこちら(ニューヨーク)の近況を報告します。UPTOWNはいわゆるマンハッタン(マンハッタンはマンハッタン語で「平坦」の意味ですが)の東部においては「平坦」ではないのです(特にUPTOWNでは)。フランスの影響が圧倒的ですが、フランスの影響が圧倒的ではない、というところで、音楽はいえませんが、黒人のリズムの強い、いわゆるディスコミュージック(踊る為の音楽)

変)がNO・1です。もっとも、それ行きの話ですが、JAZZは相変わらず根強いシブイ人気があるようです。それに面白いことに最近日本からくる若い人には、JAZZが大変もていっているようです。

建国百年祭は、あまりにも商業的で一般の人にはあまり関係ない感じがします。これはアメリカ人（殊にニューヨーク）の生き方でもあるのでしょいか。絵はちょっと二時のアブストラクトインプレッションイズが影をひそめて、ちょっとミニマル・アート系のものうっしろ形のあるものになってきているようにもあります。

(ニューヨーク 藤尾諭秀)

☆世界にはばたく神戸っ子。ニューヨークで絵の勉強をしているミスター・フジ。あいかわらず元気で活躍中みたいですね編集部より

★神戸新聞の第一面の「笑点」を七千回描き続けたマンガ家のおたくはしもうさんが「フリー宣言」。

5月27日。もうさんの乳離れの会が田辺聖子、川野純夫と夫妻のきもいりによりニューボートホテルで開かれました。ガンバレもうさん、フリー宣言の一文をご紹介します。

[illegible]

アトリエ／神戸市兵庫区小河通3  
 ノ13口078 676 686 53  
 ク／神戸市貴区浜辺通7ノ3  
 13ニールポートホテル11311号  
 ★モダンダンスの今岡譲二さんが  
 日本の音と創作ダンスの10回の  
 をテーマに創作を続け、6月10日  
 (木)午後6時より「花舞」雪  
 の抄、月の抄、花の抄を、庄司裕  
 の演出・振付で、藤倉推峰、音楽監  
 督、宮川邦生、美術／前田哲彦、  
 照明／林恵介、舞台監督／中倉敏  
 博出演／今岡譲二、加藤さよ子  
 池田貞臣、小沼康浩、笛／藤倉推  
 峰、中川善男、太鼓／藤倉悦、  
 村中村善、三味線／今藤美佐枝、  
 明／今藤尚之らのみなさん。入場  
 料2500円お申込①3911518  
 ★兵庫県美術家同盟の創立30周年  
 記念の美術祭が、生田神社会館で  
 5月28日、盛大に開かれました。







## 今やライセンスは 女性の必需品よ！

### 江田 敦子さん

〈ファッションデザイナー〉  
「神戸自動車学院へ3月2日に入学して4月に卒業、5月11日に免許をもらいました。先生がやさしくて、とてもいい人が多いみたい。ちょっと遠かったけれどバスがあるので便利でした」と語る江田さんはアシスタントデザイナーから独立してアトリエを持ったばかり。やっとお客さまのところに車で廻れると嬉しそう。



### ■スタッフ紹介 / 西木孝一（当院長）

「絶対事故を起こさない生徒を作る教習内容ですよ」と元生田署長の西木院長は、釣と野球好きのおじさま。

### ●ライセンスローン開設 /

公安委員会指定・技能試験免除

## 神戸自動車学院

☎ 581-1207 (代表)

神戸市北区緑町3丁目6番1号  
(神鉄山の街下車)



# ●わたしと土鈴へ1●



## 「土鈴」との出あい 山田 旺



鈴の音に「やまとごころ」をし  
のんだといわれている国学者、本  
居宣長は、鈴を愛玩用に活用した  
最初の人かも知れませんが、わた  
しは、旅先の郷土がん具がならぶ  
店で、ふと目にとまり心に引かれ  
て買って帰った土鈴、そんなひま  
んなことから土鈴を蒐集しはじめ  
て、かれこれ十数年が経て、その  
数、二千数百個になんなんとして  
います。

その地方の土質や、焼く窯元の  
焼き加減によって、素焼の土と土  
とのからあう音が、みんな違った  
暖かみのある軽快な、そして素朴  
な音になって響きわたり、土鈴の  
もつ味わいをつたえてくれます。  
土鈴の発祥はきわめて古く、又  
遠く古代にさかのぼり、その呼び  
名も、「はにすず」「どれい」とい  
われ、ひとりわが国のみでなく世  
界各国で作られた原始的な楽器で  
した。いつの頃からか、その音の  
響きは魔除けに効力がある、とい  
うところから、信仰、俗信の対象  
物に扱われ、神仏、祭祀に用いら  
れ、後に装飾品にも用いられるよ  
うになりました。

床先で、いい土鈴が見つければ、  
多い時は両手さげ一杯に持ちかえ  
り、一つ一つ包みから取りだして、  
鈴の音に耳を傾けながら、棚にな  
らべていく楽しみは、又かくべつ。  
診療をおえ、疲れた体で帰宅し  
た日など、土鈴を取りだして一振  
りすれば部屋いっぱいに鳴り響き  
音が、色が、形が、さまざまに心  
を慰めてくれます。

「カラコロとわたしのこゝろに  
土鈴が鳴る」



# 神戸のうまいもんとドリンキング

## ★日本料理

讃岐名代うどん **あこや亭**  
 舞合区旗塚池 7-5 TEL 231-6300  
 トアロード店 TEL 391-2538  
 兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食 **くれな**  
 三宮生田新道浜側中央  
 KCBビル 2F TEL 331-0494

かつばう **吉本**  
 生田区加納町 3丁目95-1  
 (ニュージャパニ別館前) TEL 241-3450

鍋もの・おむすび **味の郷**  
 生田区北長狭通 1の20 TEL 331-3848  
 三宮さんちかタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび **ふる**  
 生田区北長狭通 2の1  
 TEL 331-5535

たこ焼 **たちばな**  
 三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 **蝦夷**  
 生田区中山手通 1丁目115  
 生田区東門筋東門会館ビル 1階  
 TEL 331-7770

カニ料理 **婆娑羅(ばさら)**  
 生田区北長狭通 1丁目18  
 三宮阪急西口北側レインボープラザ 1・2F  
 TEL 321-6363

Objets D'art **瀬戸**  
 美術喫茶 **瀬戸**  
 生田区山本通 3丁目27の9  
 瀬戸ビル 1F TEL 221-6548

## ★西洋料理

レストラン **アポロン**  
 ティー・バーラー  
 舞合区八幡通 5丁目6 TEL 251-3231

レストラン **鹿鹿皮(あらかわ)**  
 生田区中山手 2-9 TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE **SAN-MON 三門**  
 生田区中山手通 2丁目98/99 TEL 331-5817

ステーキハウス **れんが亭**  
 生田区下山手通 2丁目34 TEL 331-7168

レストラン **セントジョージ**  
 生田区北野町 1丁目130 TEL 242-1234

レストラン **男爵**  
 生田区中山手 1-18  
 山手第一ビル 1F TEL 241-0778

maison de la mode **花屋敷**  
 三宮フラワーロード市役所前 TEL 251-2109

鉄板グリル **きゃんどる**  
 生田区北長狭通 2-22 TEL 331-1183

ポリネシア料理 海賊焼 **フィッシャー・マンズ・ポート**  
 神戸港第4突堤ポートターミナル  
 TEL 331-0301

居酒屋 フラメンコショー **ロス・ヒターノス**  
 生田区下山手通 3丁目22  
 下山手セントラルハイフ  
 TEL 391-5431

レストラン **ムーンライト**  
 三宮・生田新道 TEL 331-9554  
 TEL 331-2509

グリル・鉄板焼 **BARBECUE & STEAK**  
 生田区元町通 3丁目 TEL 331-2108

レストラン **スイスシャレー**  
 生田区北野町 3丁目48 アニル・ド・マシヨ 1F  
 TEL 221-4343

フランス料理 **ビストロドゥリオン**  
 生田区山本通 2丁目40-1  
 TEL 221-2727

ピッツアハウス **ピノッキオ**  
 生田区中山手通 2-101 TEL 331-3545

レストラン **フック東店**  
 生田区栄町 1-5-3 TEL 321-3207

ビザ&スバゲティ **ガルの店**  
 舞合区琴緒町 5丁目1-7 西山ビル 1F TEL 241-9025

ステーキハウス **グリン青山**  
 生田区中山手通 2丁目112-2(トアロード) TEL 391-4858

レストラン **フック神戸店**  
 生田区栄町通 2丁目24 TEL 321-3453

レストラン **元町フルーツホール**  
 フランス料理  
 元町 1番街 TEL 331-1987

ビザ・パブ **ピザ・パテオ**  
 生田区元町通 1丁目49(元町1番街)  
 TEL 331-9378

ナイト レストラン **火の鳥**  
 生田区中山手通 1丁目27 TEL 242-1330

スカンディナヴィア料理 ト世界の民族音楽の店 **ゴックスタッド**  
 生田区山本通 3丁目18 回教寺院前 TEL 242-0131

メキシコ小料理亭 **ティファナーナ**  
 生田区中山手通 1丁目4ノ12 パールコーポラスビル 1F  
 TEL 242-0043

ステーキ & ドリンキング **黒牛**  
 生田区中山手通 2丁目39の36  
 TEL 241-3739

炭焼ステーキハウス **ホンダ**  
 生田区北長狭通 1丁目43-6(生田新道浜側)  
 TEL 321-0054

ステーキ & ドリンク **神戸館**  
 生田区下山手通 2丁目29の3  
 アマツビル 1F TEL 321-2955

★喫茶 **にしむら珈琲店**  
 宮・水・コーヒ  
 中山手通・生田区中山手通 1丁目70  
 TEL 221-1872・231-9524  
 センター街店・生田区三宮町 2丁目35  
 TEL 391-0669

北野店・山本通 2丁目9 TEL 242-2467  
 (会員制) 3F事務所 TEL 242-1880

喫茶 **ガーデニア**  
 生田区東町 113-1 大神ビル 1F TEL 321-5114

珈琲 **モーツァルト**  
 生田区山本通 2丁目98 グランドマンション 1F  
 TEL 241-3961

ティー & スナック **エポック**  
 生田区元町通 3丁目(浜側) TEL 331-3694

コーヒースポット **メディタレーニアン**  
 生田区北長狭通 3丁目(トアロード)アーバンビル B 1  
 TEL 331-2050

★club **千**  
 クラブ  
 生田区下山手通 2丁目21 TEL 391-1077

club **飛鳥**  
 生田区中山手通 1丁目117 TEL 331-7627

club **小万**  
 生田区東門筋中島ビル 3F  
 TEL 391-0638・4386

club **さ**  
 生田区中山手通 2丁目75 TEL 331-7120

club **なぎさ**  
 生田区北長狭通 2の1 TEL 331-8626

くらぶ **ーげん**  
 三宮生田新道浜側中央KCBビル 5F TEL 331-8593

club **Moon Light**  
 BAR TEL 331-0886・391-2696  
 Club TEL 331-0157

クラブ **るらん**  
 生田区北長狭通 1丁目53 TEL 331-2854

★STAND & SNACK **スカーレット北野**  
 お好み鉄板スナック  
 生田区北野町 2 北野アーバンライフ 1F TEL 242-0076

ドリンク & レストラン **ベルビュ・ドール**  
 生田区中山手通 2丁目1101 大洋ビル 2F  
 TEL 321 5677

スタンド **かてな**  
 生田区中山手通 1丁目90 英健ビル 1F  
 TEL 331-1316

洋酒ハウス **雑貨屋**  
 生田区下山手通 2丁目8の6  
 (生田新道相対タクシー横上る) TEL 321-0260

スタンド **グラムール**  
 生田区筋岸ビル地階 TEL 331-4637

スナック & ドリンク **姫**  
 生田区中山手通 1丁目18 TEL 221-1950

カクテルラウンジ **サヴォイ**  
 高架山側 テキの店北 TEL 331-2615

DRINKING IS AN ART OF LIFE **ウッドハウス**  
 生田区下山手通 1丁目32 TEL 241-7320

スナック **ビジービー**  
 生田区中山手 2丁目 TEL 391-4582

居酒屋 **ボルドー**  
 生田新道浜側中央KCBビル B 1F TEL 331-3575

Wine and something **珍地理屋**  
 生田区中山手通 1丁目24-7  
 大和ナイトプラザ 1F TEL 242-0288

サロン **神戸時代**  
 生田区中山手通 1丁目28  
 モンシャウトコトブキビル TEL 242-3567

ナイトイン **おしゃれ貴族**  
 生田区中山手通 1丁目24-7  
 大和ナイトプラザ B 1 TEL 242-1925

スタンド **くる実**  
 生田区中山手通 1の72 TEL 331-6985

**キャンティ**  
 本店洋酒の店 生田区北長狭通 2ノ3  
 TEL 391-3060・391-3010

北店スーパとパンの店 生田区下山手通 3ノ8ノ9  
 TEL 331-3661

DRINK SNACK **スネカジリッ子**  
 生田区下山手通 2丁目  
 永晃ビル B 1 TEL 391-8708

music spot **サントノール**  
 トアロード店 生田区下山手通 2丁目トア・ロード  
 TEL 391-3822

北野店 生田区中山手通 1丁目24-7  
 ダイワナイトプラザ 6F TEL 221-3886

素舌洞 **でっさん**  
 生田区北長狭通 1丁目258  
 TEL 331-6778

STAND **マシュケナダ**  
 生田区下山手通 2丁目ちやいなタウン地下  
 TEL 331-5587

スナック **GASTRO**  
 生田区中山手通 3-20  
 トア・マンション TEL 231-0723

ティー&パブハウス **バスチャーリントン**  
 生田区北長狭通 2丁目(トアロード) TEL 332-1125

純会員制 **エドワーズ倶楽部**  
 生田区北長狭通 1丁目28  
 ホワイトローズビル 5・6F 生田新道 TEL 391-3300

サロン **アルバトロス**  
 生田区中山手通 1丁目24の7  
 大和ナイトプラザ 2F-B TEL (231)3300

CAFE WHISKY **音楽の家・ETエトワTOI**  
 生田区三宮町 3丁目 三宮センター街西入口  
 スカイトアビル 3F TEL 332-1755

スナック **山荘**  
 生田区北長狭通 1丁目22 TEL 391-5823

ティ&カクテルラウンジ **ルカカルトン**  
 生田区北野町 3丁目2-67 TEL 241-4323

スナック **興志務楽亭**  
 生田区山本通 2丁目60 パールライフ B 1  
 TEL 242-1977

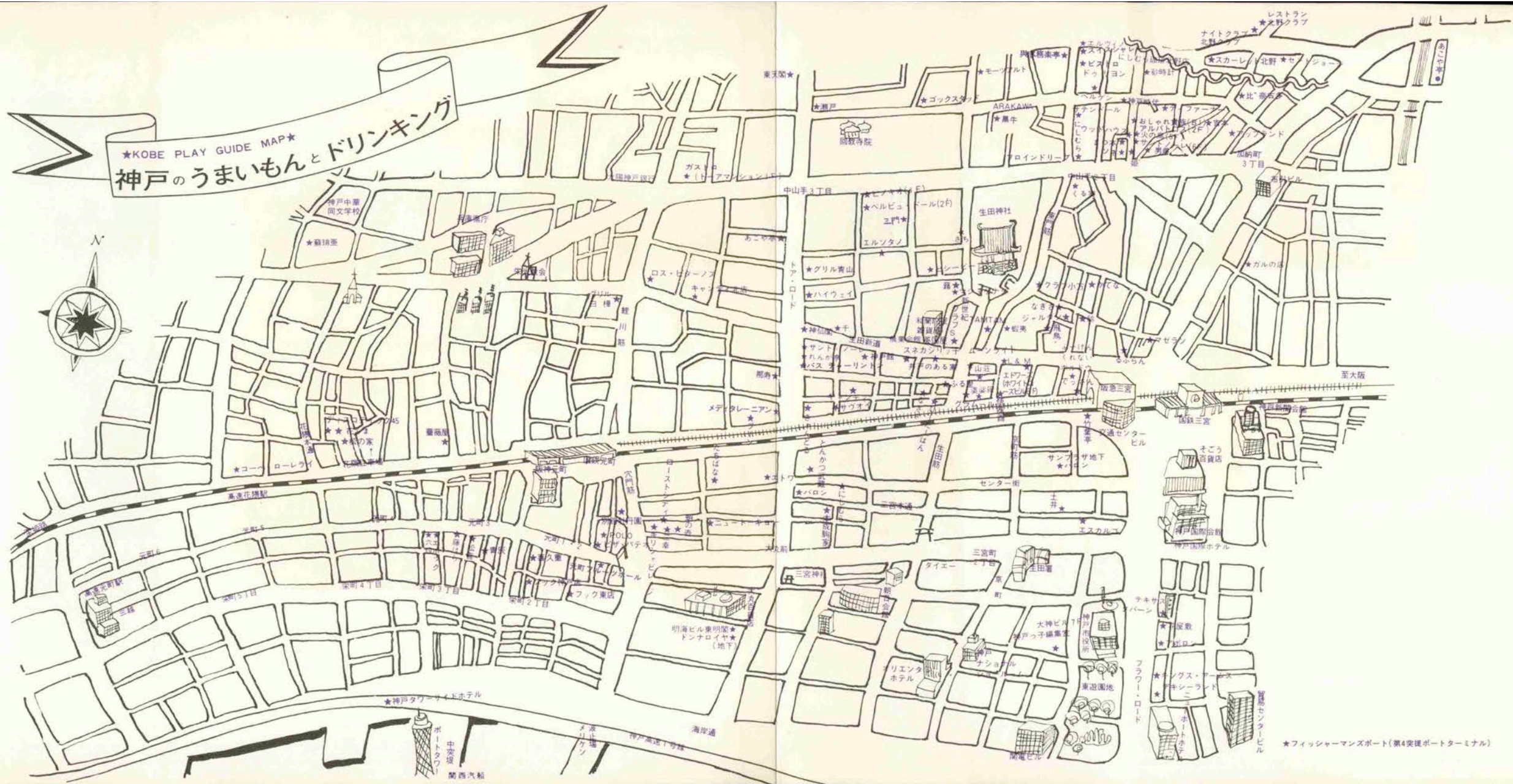
SNACK **L&M**  
 生田区北長狭通 1丁目25 生田新道ビル B 1 TEL 321-3070

スナック **美和**  
 生田区下山手通 1丁目 TEL 391-3050



★Kobe Play Guide Map★

神戸のうまいもん＆ドリンキング



★フィッシャーメンズポート(第4突堤ポートターミナル)





# baLcon antique series

〈40〉 貝がら

松田 稜さん

〈高校教師〉

創ること。陶芸。一年前から若い人たちが自宅のカマに集まってくる陶芸教室を開きアイデアあふれる器の制作に余念がない。

「昔は西宮の浜で泳げた。海にもぐってみると、とってもきれい」小学校三年の時。以来、海の中へ！ 今夏はサメを追ってフィリピンの海へ。

手にするペンダントは獲物のタイの歯。何でも作ってしまう。そういえば陶芸教室に使う部屋、松田さんの手作りだった。

センター街店にて  
カメラ / 米田 定蔵



## バコン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店  
TEL 391-1758 AM11:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店  
TEL 391-1210 AM10:00~PM9:00迄

★コーヒーショップ センター街店  
TEL 391-1375 AM10:00~PM9:00迄



# 東西酒徒の取組どころ——クラブ小万亭



▲'76神戸酒祭りから



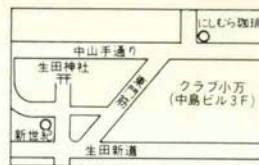
CLUB

小万

岩本起代子

神戸市生田区中山手通 1丁目 114-1 (東門筋) 中島ビル3F

☎ 391-0638・4386





クラブ  
るふらん

神戸市生田区北長狭通 1 丁目53  
☎ 331-2854



'76神戸酒祭りには神戸を代表する酒亭が揃いました



酒肆  
ヌベール

神戸市生田区北長狭通 2 丁目14  
☎ 331-9005



スナック  
美 和

神戸市生田区下山手通 1 丁目5  
☎ 391-3050





甘いギターの調べは  
ひとの心を酔わせる

心地よい酔いに  
身をまかせるとき  
琥珀色の世界がひろがり  
いつものこの店で  
今日一日の疲れをいやす

素敵な音楽と人の暖かさ  
それがこの店にはある

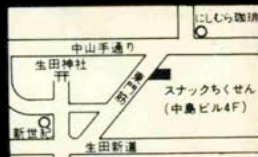
スナック

ちくせん

ちくせんミュージックタイム  
神戸のター坊の演歌熱唱  
平田正明のピアノ弾き語り

生田区中山手通 1丁目114-1  
☎331-3131

近藤正美・岩本文夫



## Night in June



### 酒房 駒屋

生田区中山手通 1 丁目105  
宮ビル 1 F  
☎ 391-1333

居酒屋風の気楽に飲めるお店。焼きもの、煮ものなど各種の日本料理が楽しめる。誠実で感じがいいので女性にも喜ばれる。ロバートブラウン / キープ4,500 水割350 PM 5:30~AM 1 無休



スナック

### やぎ

生田区北野町 1 丁目143-1  
リ・ハイム 1 F  
☎ 221-7897

親子二人でやっている店。だから、店の雰囲気も家庭的で、明るく和やかだ。また、場所が若い人たちがよく集っている。ロバートブラウン / キープ6,500 水割500 PM 5~AM 12 木曜定休



### KIRIN CLUB

西宮市越木岩町11番6号  
苦楽園エクセル 3 F  
☎ (0798) 72-7833

夜6時まではティータイム。8時から11時までピアノ演奏が入る。店主催のゴルフコンペもやっている。ロバートブラウン / キープ6,000 (メンバー3,000) 水割700 AM 10~AM 12 日曜定休



### SNACK KAZUMI

生田区下山手通 3 丁目22  
三石ビル B F  
☎ 332-1558

レンガ造りの洋酒棚などシックな感じの店。マイク片手に歌ったり気楽に飲めるのがいい。女性も仲々魅力的である。ロバートブラウン / キープ6,000 水割500 PM 6~AM 2 第2・4火曜定休





PUB & RESTAURANT

UPLANDS

生田区加納町3丁目

1-34

☎241-8271



DRINKING IS AN ART OF LIFE

WOODHOUSE

生田区中山手通1丁目32

山内ビル

☎241-7320・7983

KOBE DRINKING GUIDE

RANNOHANA

蘭の花

生田区中山手通2丁目30-1

東門大和ナイトプラザ5F

☎391-4455



SATIN DOLL

生田区中山手通1丁目57

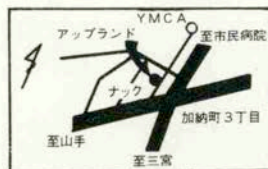
☎242-0100



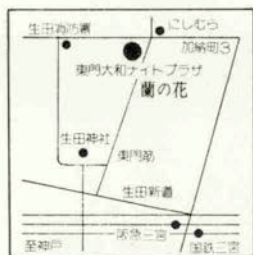
☆「アップランド」のライブタイムを紹介します。毎晩7時30分から12時まで、月・水・金曜日はチャーリーのボーカル、火・木曜日はアキラ（ピアノ）と高垣（ベース）が、そして、土曜日には30分毎にチャーリーとアキラ&高垣がプレイします。ステキな演奏をお楽しみ下さい。

☆ランチタイムメニュー（11:00 AM～2:00 PM）ランチ（日変わりメニュー）、スープ、ライス又はパン付）¥500 ビラフ ¥400 スパゲティ（イタリアン）¥400 同（ミートソース）¥500 サンドイッチ各種 ¥400 コーヒ、紅茶各 ¥250 ミックスジュース ¥350 オレンジジュース ¥250

☆ローストビーフ ¥2,700 ポークソーセージ ¥900 シェパーズパイ ¥850 ステーキ&キドニイパイ ¥800 フィッシュ&チップス ¥600 ゴーニッシュパースティ ¥600 J&B、G&G、OLD、ビール各 ¥400 平日11:00 AM～3:00 AM 祭日6:00 PM～3:00 AM 日曜6:00 PM～0:00 AM 無休



アップランド



蘭の花

☆「蘭の花」——可憐でかわいい名前のお店がオープンしました。東門筋の坂の上、新しいビルのなかの小さな部屋です。お店の造りと色合いは趣味のよさを感じさせ、ほのかな気品が感じられます。小じんまりとした気楽な雰囲気の中で気楽に飲めます。個性あるスタッフが気のきいたおしゃべりの相手をする。開店してまだひと月あまりですが、神戸の夜にやさしく咲く一輪の花——蘭の花はファンが増えつつあります。

☆キーブ / J & B ¥7,000 から。他にスコッチ、コニャック、バーボンなどお好みのボトルをキーブします。水割（J & B）¥700 おつまみ ¥600 また、食事もスパゲティ、ビーフシチューなど色々あります。

6:00 PM～1:00 AM 日曜日休み

☆「赤ヘル・ウッド」がお相手します。

すがすがしい季節、スポーツの6月になりました。以前、神戸つ子に紹介しました「ウッドハウス」の野球部がユニホームを一新、赤にまどめてみました。去年の広島、今年のウッド、赤ヘルに「W」のマークは今、中山手ではウワサの高いチームになりました。一度、「ウッドハウス」に来て下さい。口じゃ負けない連中が試合相手をさがしております。

「ウッドハウス」の強さ、今、はやりの言葉で「わかんねえだろうな」ぜひ一度お手合わせを。「ウッドハウス」アキラまでご連絡下さい。

なお、今年からキーブボトルをしました。ニッカG&Gとスコッチです。ぜひ1本キーブして下さい。

☆ビール（小）¥400 水割（OLD）フィズ各 ¥500 おつまみ ¥150 スパゲティ・ビラフ各 ¥500 平日5:00 PM～2:00 AM 日曜5:00 PM～0:00 AM 第1・第3月曜休み

ウッドハウス



サテンドール



☆4月26日夜、「サテンドール」は若い熱気に包まれていた。東京から菅野邦彦（ピアノ）、菊地秀行（アルトサクソフーン）を迎え、さらに若手のホープ、ケンティン・パラデス（ギター）らを加えて、菅野邦彦の第2回コンサートが開かれたのだ。当夜は白熱のプレイが繰り広げられ大盛況であった。また、6月1日夜には池田芳夫カルネットのコンサートが予定されている。

「サテンドール」ではこのようなコンサートの他、近日中には連夜休みなしに演奏が入る。月～土曜日は宮原遼トリオ、日曜日には西山満ほか大阪の一流ジャズメンのプレイが予定されている。

☆「サテンドール」ではお1人様3,500円（税込、食事付、フリードリンク）で貸切りパーティを承っています。（昼間も可）

☆ボトル / G & G ¥5,000 カティールサーク ¥6,500 バーボン ¥5,000 から 6:00 PM～4:00 AM